二〇一四年九月二六日

金木犀褒めて立ち去る郵便夫　三刀

離島へとナビになき橋天高し　なつき

二〇一四年九月二五日

大阿蘇の夕陽に染まる芒かな　宏虎

退職の日の近づきし秋思かな　こすもす

二〇一四年九月二四日

連絡船待てる桟橋鰯跳ぬる　なつき

隆隆の松の根方に曼珠沙華　菜々

稔り田をかけ巡りをる里の風　有香

二〇一四年九月二三日

石垣のこんな所に曼珠沙華　ぽんこ

蟋蟀のかんばせ歌舞伎役者めく　三刀

焼きたてのパン屋に並ぶ路地の秋　満天

二〇一四年九月二二日

上棟の棟木収まる菊日和　三刀

休み田の増えたる里や秋深む　ひさ野

二〇一四年九月二一日

林中に朱を点じたる蔦紅葉　はく子

菩提寺の大門開く秋彼岸　宏虎

二〇一四年九月二〇日

直角に曲る稲田のコンバイン　せいじ

音たてて休み田に咲く月見草　みちほ

まつすぐに緋の帯なせる彼岸花　菜々

毎日句会みのる選・二〇一四年九月二八日